

第6節 県内における敷石住居跡の分布について

敷石住居跡は、人間が集団で家を造り始めた歴史のなかで、ある時期にのみなされる住居形態で、居住部分や入口部分に平石を配置するというものである。現在、この時期について様々な方向からの論議がなされているが、その要因の一つには、開発などによる発掘件数の増加があげられ、敷石住居跡の調査例や資料が蓄積され、さらに拍車をかけているようである。山梨県内も例外ではなく、ここ数年の調査成果は、北巨摩郡や大月・都留市を中心とする地域にめざましい。今回調査された都留市中谷遺跡は後者に含まれ、10軒の敷石住居が検出されている。発掘調査は2年次にわたり行われ、この2年次目と同年には、大月市大月遺跡でやはり6軒の敷石住居跡が調査されている。この2遺跡の住居跡は時期的に近く、地域的にも八ヶ岳山麓と関東地方との文化圏の接点を論ずるうえで、以前から重要視されていた場所であった。この事を念頭に置きながら、県内確認の敷石住居跡の分布を把握し、時期的な差や地域の特徴がどのように見られるのかななどを示し、中谷遺跡で確認された敷石住居跡について考えてみたいと思う。

現在、県内で敷石住居跡が検出された遺跡は第140図に示したとおりで、33カ所を数える¹⁾。その内訳は、北巨摩地域で13、東山梨地域で2、東八代地域で6、北都留地域で6、南都留地域では6カ所となる。この分布は、発掘が行われた件数の差を考慮に入れても、発見される地域に多少の偏りがみられ、特にそれは、北巨摩地域の高根町から須玉町・明野村にかけてと、南北都留地域での都留市・大月市にかけての範囲に広がると思われる。一覧表に示したとおり、県内全域からみて、一般的な敷石住居跡の存在時期である縄文時代中期末から後期末頃までつくられている。しかし、地域によっては継続制が欠けている、例えば、東山梨地域では古宿道の上遺跡で、中期終末の敷石住居跡が確認されて以降、周辺からそれらしい遺構が全く確認されていないし、東八代・西八代地域においても縄文時代後期半ばから後半にいたる間に限定されている。敷石住居跡の発生については、八ヶ岳山麓から次第に関東地域に波及していく事が以前から指摘されているが、山梨県内においては、この分布を見ていく限りそうとも言い切れない。それは、敷石住居跡が発生する縄文時代中期末に八ヶ岳南麓の北巨摩地域ではこれに該当する遺跡が、須玉町郷蔵地遺跡・明野村屋敷添遺跡と極めて少ない。また、最も古く位置づけられる住居跡には、曽利式土器に伴って加曽利E式土器が出土していることなどが挙げられ、これらが出土する遺跡を見ると、先にあげた牧丘町の古宿道の上遺跡や、東八代地域・都留市や大月市周辺など県東部に集中している事がわかる。このことから、少なくとも、県内における敷石住居跡の発生は、北巨摩地域ではなく南北都留地域にあるのではないかと考える。

以上の県内の傾向から言えば、中谷遺跡の資料は敷石住居跡の発生時を検証にするためにも大切なものである。調査の結果、検出された敷石住居跡のうち10軒中8軒までが柄鏡形で、あとの2軒は円形である。時期的には曽利V式に属するもの7軒(2, 3, 4, 5, 9, 10, 12)・堀之内I式に属するもの3軒(1, 11, 15)となる。敷石の形態は一樣でなく、殆どの住居跡において居住部の壁際に縁石が巡らされている。この縁石に沿って奥壁側に敷石を敷きつめるものと、ほぼ前面に敷きつめるものに大別される。全面に敷石を施すものは2軒で、居住部と柄の連結部から炉に向かって放射状に石を配置している。住居跡の柄は、長方形に石を組むものが主体であるが、居住部に比べて柄が小さいものが目立つ。柄鏡形というより帆立貝に近いものもあり、柄の内側やその周辺にも一部に敷石が施される。柱穴は、消失家屋であった1号住居跡と4号・5号・10号住居跡から確認されている。1号住居跡は縁石の間に柱を設置するタイプで、4号住居跡は居住部に支柱穴が5本配置される。5号住居跡は、居住部の外側に柱穴を持つタイプで、10号住居跡は居住部内の壁際に柱穴を持つタイプである。1号住居跡以外は住居跡であるが、柱穴の配置は一樣ではなく、多少の時期の差があるのだろうか。住居内施設の埋甕は、山本暉久(1976ほか)によれば、柄の部分の敷石が、埋甕という信仰対象の住居内祭祀として拡大されたものと解釈され、埋甕の存在を重要視しているようであるが、本遺跡で確認された埋甕は2号と9号住居跡の2軒に過ぎない。2号住の埋甕は、柄内側の敷石がない部分からの検出で、9号住は居住部と柄部の連結部に近い場所から見つかった。炉は、殆どが正方形の石囲いで、熱伝導の良い溶岩を使用している。溶岩は、近くを流

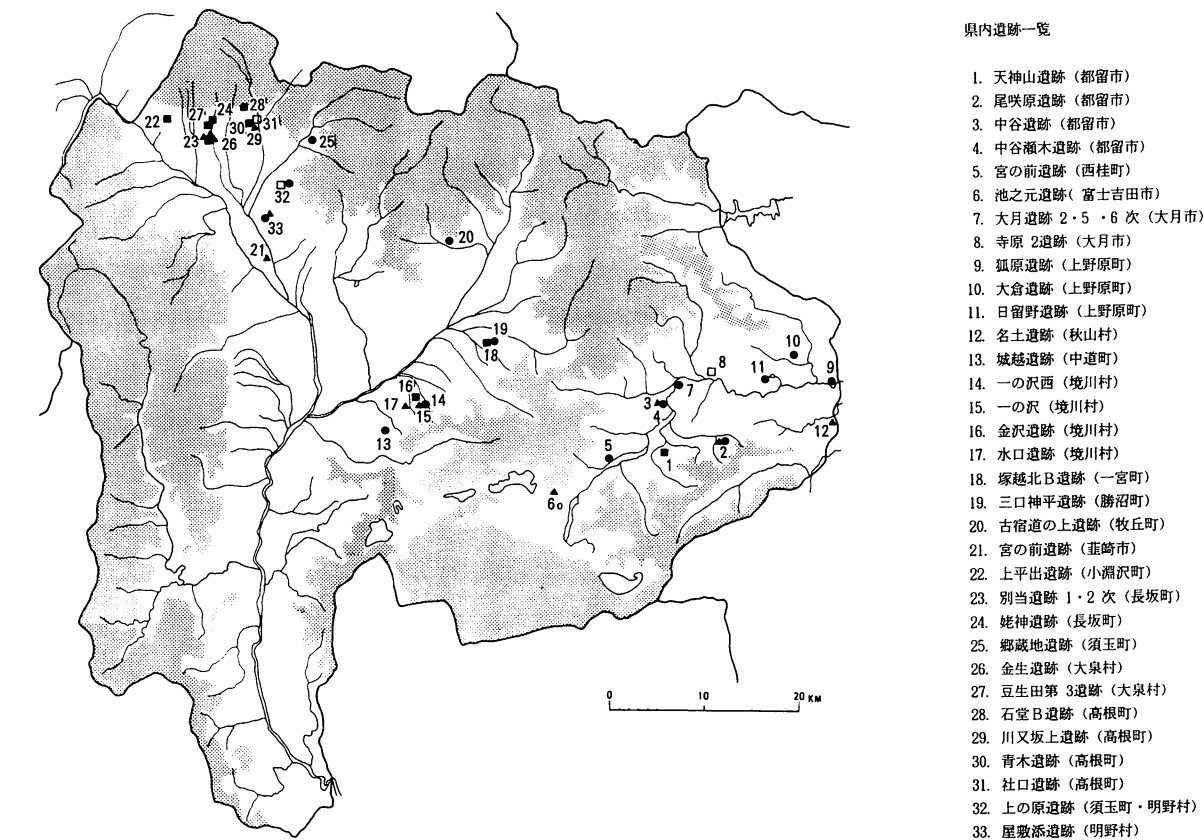
れる桂川の河岸段丘の断崖から容易に採取できたものとおもわれるが、10号住居跡だけは、炉全体に平らな川原石を敷きつめたものであった。以上、様々な形態がみられる内容であるが、更に重要なのは、これらの住居跡から加曽利EⅣ式に属する土器が曽利Ⅴ式と一緒に出土していることである²⁾。今回の調査によって八ヶ岳山麓を中心とする曽利式土器の文化圏と関東地域の加曽利E式土器文化圏が共存することから、以前から問題とされてきた土器編年に資料を提供することができた。また、2つの文化圏の接点としての地理的な性格を明らかにする必要性もあり、今後、更に周辺の遺跡を再検討する課題が残された。

注1 ここでは、文献で確認できたものと、未報告だが担当者に許可を頂いた遺跡のみを掲載している。

注2 これについては、第4章第7節に詳しいため、そちらを参照。

参考文献

村田文夫「柄鏡形住居址考—その後—」『古代文化』11. Vol27. 1975 古代学協会
山本暉久「敷石住居出現のもつ意味」(上・下)『古代文化』2～3. Vol28. 1976 古代学協会
山本暉久「敷石住居」『縄文文化の研究—社会・文化—』8 1982 雄山閣
山本暉久「敷石住居終焉のもつ意味」(1～4)『古代文化』1～4. Vol39. 1987 古代学協会
赤城高志「縄文時代柄鏡形敷石住居の微視的分析」『人間・遺跡・遺物—わが考古学論集2—』1992 発掘考古談話会
石井 寛「縄文後期集落の後世に関する一試論—関東地方西部域を中心に—」『縄文時代』第5号 1994 縄文時代文化研究会
櫛原功一「柄鏡形住居の柱穴配置」『帝京大学山梨文化財研究所 研究報告—特集 縄文時代中・後期の住居をめぐる諸問題』第6集 1995 帝京大学山梨文化財研究所
本橋恵美子「縄文時代の柄鏡形敷石住居址の発生について」『帝京大学山梨文化財研究所 研究報告—特集 縄文時代中・後期の住居をめぐる諸問題』第6集 1995 帝京大学山梨文化財研究所
山本暉久「柄鏡形(敷石)住居成立期の再検討」『古代探叢Ⅳ—滝口宏先生追悼考古学論集—』1995 早稲田大学出版部



第140図 敷石住居跡検出遺跡位置図

山梨県内敷石住居跡一覧表

番号	遺 跡 名	所 在 地	遺構番号	形 状	敷 石 部 分	屋 内 施 設				時 期
						柱穴	炉	埋甕	溝	
1	天神山	都留市法能	1 軒	円形	全面	×	石囲い	×	×	
2	尾咲原	旭小学校第2地点	12住	柄鏡形	ほぼ全面		石囲い	×	×	加曽利EⅣ式
		旭小学校第1地点	13住	円形	壁際	×	○	×	×	堀之内Ⅰ式
		旭小学校第1地点	15住	柄鏡形	炉～張り出し部、奥壁	○	石囲い	×	×	〃
3	中谷	都留市小形山	1 軒		炉周辺		石囲い			中期末?
4	中谷	都留市小形山瀬木	1 住	柄鏡形	縁石辺と柄部	○	焼土	×	×	堀之内Ⅰ式
			2 住	〃	奥壁側と柄部	×	○	○	×	曾利Ⅴ式
			3 住	〃	奥壁側と柄部	×	石囲い	×		〃
			4 住	〃	ほぼ全面	○	石囲い	×		〃
			5 住	〃	柄部	○	石囲い	×		〃
			9 住	〃	炉の南側	×		○		〃
			10住	円形	縁石	○	石囲い	×		〃
			11住	〃	全面	×	石囲い	×		堀之内Ⅰ式
			12住	柄鏡形	ほぼ全面	×	石囲い	×		曾利Ⅴ式
			15住	柄鏡形	部分	×		×		
5	宮の前	西桂町下地	1 住	円形	ほぼ全面	×	石囲い	○		曾利Ⅳ式
6	池之元	富士吉田市新倉	1 軒	柄鏡形	炉～柄部	○	石囲い	×		堀之内Ⅱ式
7	大月(2次) 大月(5次) 大月(6次)	大月市大月2丁目 大月市大月2丁目 大月市大月2丁目	1 軒		部分	×	石囲い	×		
			1 住	円形?	部分	×		×		後期
			1 住	五角形	全面	×	石囲い	○		加曽利EⅣ式
			2 住	柄鏡形	ほぼ全面	×	石囲い	○		〃
			6 住	〃	全面	×	石囲い	×		
			10住	〃	炉周辺と柄部	×	石囲い	×		
			11住	円形	全面	×	石囲い	○		曾利Ⅴ
			13住	柄鏡形	全面	×	石囲い	×		
8	寺原2	大月市猿橋町下和田	1 軒		部分	×		×		後期堀之内
9	狐原	北都留郡上野原町	1 軒	柄鏡形	ほぼ全面	×	○	×		中期末
10	大倉	北都留郡上野原町大倉	1 住	柄鏡形	柄部	×		○		曾利Ⅴ式加曽利Eの終末
11	日留野	北都留郡上野原町	1 軒	円形?	部分					加曽利EⅣ式
12	名土(旧富岡)	南都留郡秋山村富岡	1 軒	柄鏡形	全面	×	石囲い	×		堀之内 式
13	城越	東八代郡中道町右左口	1 軒	円形又は楕円形	部分	×	石囲い	×		加曽利EⅡ式?
14	一の沢西	東八代郡境川村小黑坂	2 住	柄鏡形	ほぼ全面	×	石囲い	×		堀之内式
15	一の沢	東八代郡境川村小黑坂	1 住	柄鏡形	奥壁側と柄部	×	石囲い	×		加曽利EⅣ式
16	金沢	東八代郡境川村小黑坂	2 住	〃	炉～柄部	○	石囲い	×		堀之内Ⅱ式
			6 住	柄鏡?	部分					堀之内Ⅱ式～加曽利B式
17	水口	東八代郡境川村藤壙	1 住	柄鏡形	ほぼ全面	×	石囲い	×		堀之内Ⅰ式
			3 住	円形?	部分	×		×		〃
18	塚越北B、S-Ⅱ区	東八代郡一宮町塚越	SB-09	楕円形	中央部	×		×		堀之内式
			SB-10	柄鏡形	ほぼ全面	×	○	×		称名寺式
19	三口神平S-Ⅲ、N-Ⅲ、N-Ⅳ	東山梨郡勝沼町三口神平	SB-55	柄鏡形	縁石周辺と柄部	×	石囲い	×		曾利Ⅳ
			SB-85	柄鏡形	縁石周辺と柄部	×	石囲い	×		曾利Ⅳ
			SB-86		部分	×	×	×		中期末

20	古宿道の上	東山梨郡牧丘町西保	1 住	円形？		×	石囲い	○？	曾利Ⅴ式
			2 住	柄鏡形	炉 北側と炉～柄部	×	石囲い	×	曾利Ⅳ～Ⅴ式
21	宮の前	韭崎市藤井町	408住	円形	壁際	○			堀之内式
			417住	円形	入り口部	×	方形石囲い	×	堀之内式
			422住	柄鏡形？	部分	×	○	×	堀之内式？
22	上平出	北巨摩郡小淵沢町	7 J	円形？	炉北側	○	方形石囲い	×	堀之内式～加曾利Ⅱ式
23	別当（1次）	北巨摩郡長坂町大八田	2 住	柄鏡形	炉周辺～柄部	×	方形石囲い	×	堀之内式
			3 住		部分	×	○	×	
	別当（2次）	北巨摩郡長坂町大八田	1 住	柄鏡形	炉から柄部	×	石囲い	×	堀之内Ⅰ式
			2 住	柄鏡形	ほぼ全面	×	円形石囲い	×	堀之内Ⅰ式
24	姥神	北巨摩郡大泉村西井出	1 住	円形	ほぼ全面	×	方形石囲い	×	堀之内Ⅰ式
			5 住	円形	部分	○	方形石囲い	×	堀之内Ⅰ～Ⅱ
			6 住	隅丸方形	入り口部	○	円形石囲い	×	加曾利ⅡⅠ式
			7 住	隅丸方形	入り口部	○	方形石囲い	×	堀之内Ⅱ式～加曾利ⅡⅠ式
			8 住	隅丸方形	入り口部			×	堀之内Ⅱ式～加曾利ⅡⅠ式
			9 住	柄鏡形	炉前方	○	方形石囲い	×	加曾利ⅡⅠ～Ⅱ式
			10住	隅丸方形	入り口部	○	方形石囲い	×	堀之内Ⅱ式
			15住	隅丸方形	入り口部	○	○	×	加曾利ⅡⅠ～Ⅱ式
25	郷蔵地	北巨摩郡須玉町比志	1 住	柄鏡形	壁側周辺と柄部	○	方形石囲い	×	中期後半～終末
26	金生	北巨摩郡大泉村谷戸	12住	五角形又は六角形	ほぼ全面	×	方形石囲い	×	後期前半
			32住	円形？	炉周辺	×	長方形石囲い	×	堀之内Ⅱ式
27	豆生田第3	北巨摩郡大泉村谷戸	7 住	円形？	北半分	○		×	堀之内Ⅱ式
28	石堂B	北巨摩郡高根町東井出	1 住	円形？	部分	×	石囲い	×	後期中葉
			7 住	円形？	部分	×	石囲い	×	後期中葉
			9 住	円形？	部分	×	石囲い	×	後期中葉
			11住	円形？	部分	×	石囲い	×	後期中葉
29	川又坂上	北巨摩郡高根町箕輪	5 住	柄鏡形	基部	○	方形石囲い	×	称名寺式
		北巨摩郡高根町村山北割	6 住	柄鏡形	部分	×	○	×	称名寺式
30	青木		1 住	長方形	部分敷石	×	円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
			2 住			×	円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
			8 住	方形	敷石一部残存	×	円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
			9 住	方形	部分敷石	×	円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
			12住	柄鏡形	住居部から柄	×	方形石囲い	×	堀之内式～加曾利Ⅱ式
			13住	方形？	炉周辺	×	円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
33	屋敷添	北巨摩郡明野村	14住	方形		×	楕円形石囲い	×	縄文後期中葉～後葉
			1 住		柄から住居中央部にかけて	○	石囲い	×	堀之内式？
			2 住				石囲い	×	堀之内Ⅱ式
			3 住			×	石囲い	×	後期初頭
			11住		炉部から張り出し部にかけて	×	石囲い	×	後期初頭～中葉（堀之内式～加曾利Ⅱ式）
			34住	円形	環状に敷石	×	石囲い	○	中期末（曾利Ⅳ～Ⅴ式）
31	社口（第3次）	北巨摩郡明野村	7 軒						
32	上ノ原	北巨摩郡須玉町明野村							